



『有終の美』 ～閉校に際し～

第29代学校長

砂 田 浩 彰

平成29年4月に本校の校長を拝命いたしました砂田浩彰でございます。平素より本校の教育活動にご理解とご支援を賜りまして誠にありがとうございます。深く感謝申し上げます。（誠に残念ではございますが）本校閉校に際し一言ご挨拶を申し上げます。

平成29年度の1年間ではありましたが、伏見区深草西出山町の京都工学院高校の校地（元立命館中学高等学校跡地）で、洛陽工業高校3年生と伏見工業高校3年生、そして統合再編校でもある京都工学院高校の1・2年生が、3校合同の教育活動を行ってまいりました。私はその3校（伏見工定時制を含むと4校）の校長を兼職することになり、重責ではございましたが、教職員の献身的な取り組みやご尽力、そして洛陽京工会や伏見同窓会の皆様の心のこもったご支援ご協力のおかげをもちまして、何とか無事に両校の締めくくりの平成29年度卒業生を、産業界や大学へ送り出すことができました。この場を借りて深く感謝申し上げます。

明治19年京都染工講習所の開校以来、長きにわたり日本の工業教育を引っ張ってきた本校の最後の卒業証書授与式を、平成30年3月3日（土）に挙行いたしました。そして引き続き、京都市教育委員会主催で閉校式を開催し、本校は132年の歴史に幕を閉じることになりました。当日は歴代の校長先生方や伊藤義浩洛陽京工会会頭をはじめ多くの同窓生の皆様、PTA役員でお世話になった方々のご臨席を賜りまして厳かに式典を挙行することができました。あらためて感謝申し上げます。その式典において、平成29年度生徒会長が、

『……（略）……昨年度唐橋校舎で行った最後の工展には、卒業生をはじめたくさんの方々が来校してくださり、私たちの学習の成果をしっかりと見てくださいました。また閉校舎式では、別れを惜しむ卒業生の皆さんで講堂が満席になり、別会場として用意していた教室も、溢れるほどたくさんの方が来られていたことに衝撃を受けたのを覚えています。このとき、洛陽工業がどれだけたくさんの方に愛されていたのか気づかされ、このような学校で勉強ができていることを誇りに思うようになりました。……洛陽工業が京都工学院に生まれ変わることには、少し寂しさを感じますが、……学んできたことや思い出は私たちの心から消えることはありません。それを大切にしていきたいと思います。最後に、私たちを成長させてくれた洛陽工業高等学校、ありがとうございました。』と語ってくれました。心に響く感動の挨拶でした。

同窓生の皆様が築き上げてこられた本校の歴史を、短い時間で振り返ることは簡単なことではありませんが、数多くの優秀な工学系人材を輩出してきた本校のすばらしい歴史と伝統は、今後

平成28年4月に開校した京都工学院高校が引き継いでいくことになります。皆様のご期待に応えることができるように教職員一同全力を挙げて取り組んでまいります。洛陽工・伏見工の輝かしい伝統を受け継ぎ、さらに発展させ、卒業生やその保護者の皆様から『母校が今まで以上に京都の誇りとなる素晴らしい学校になった。是非自分の子どもや孫も通わせたい。』と誇らしく自慢していただけるような魅力ある学校にしていくことが我々の使命でございます。

平成30年度は、まさに京都工学院高等学校の存在価値を問われる1年になります。AI（人工知能）やIoT、VR（仮想現実）などの言葉が毎日のようにニュースや新聞で報道され、先行き不透明な時代になり、答えのない問いや課題にどう向き合い自ら主体的に解決策を考えていくかということがこれからの時代に必要な資質能力として求められています。社会の変化に柔軟に対応し、人に役立つ新しいアイデアを生み出し科学技術で社会に貢献する人材をこの京都から創出していけるように我々も汗をかきたいと思います。進学や就職などの進路実現に向けて、また将来にわたって輝いていけるように教職員一丸となって、全力で教育活動を邁進してまいります。幸いにも京都市教育委員会の多大なご支援で、ICT教育を推進するためのWi-Fi環境や、最新の実習施設・設備、人工芝グラウンド、また公立高校最大級のアリーナ、約900人収容のホールやプレゼンテーションルーム、課題発見解決型学習（PBL）を実践するためのプロジェクタラボなど京都市一番の充実した教育環境を整えていただいています。学習面や部活動などで生徒たちがいきいきと活動できるすばらしい教育環境を、思う存分に活用していきたいと思います。是非機会がありましたら本校までお越しいただき施設と、生徒の学んでいる様子を見学していただければ幸いです。

結びに、伝統のある洛陽工・伏見工の2校の統合再編ということで、私自身責務の重大さにあらためて身の引き締まる思いを感じているところではございますが、常日頃からお世話になっている洛陽京工会役員の皆様や卒業生の皆様に、「母校の輝く未来」を安心して見守っていただけるように、誠心誠意魂を込めて努めてまいる所存です。これまでに賜りましたご支援に深く感謝申し上げますとともに、どうか今後とも京都工学院高等学校にご支援ご協力の程よろしくお願い申し上げ、私からの挨拶とさせていただきます。

関係者の皆様、洛陽工業高校に賜りました長年にわたるご支援、誠にありがとうございました。感謝!!



振り返って思うこと

第28代学校長

牛 田 豊 嗣

第28代校長に就任したのは、平成26年4月でした。この年は、洛陽工業高校の閉校舎、閉校、そして、新しい工業高校の整備予定地が決定した年でもあり、校長として洛陽工業高校の伝統を引き継ぎ、新校である京都工学院高校にスムーズに繋ぐことが大きな職務でありました。平成29年3月末までの校長在任の3年間、校長に就任する前の5年間を振り返ります。

教頭を務めた平成21年度からは洛陽工業高校の現状と課題を踏まえながら恩田校長の学校経営方針を具現化するため職務に邁進しておりました。先般の工業改革（それまでの7学科を創造技術科に改編し一括募集）から3年が経過した平成23年度からは、外部の教育力の活用を念頭に再構築した学校設定科目の『創造基礎』を学校の一つの柱としました。『創造基礎』を「ものづくり講座」と「立志塾」の2講座とし、「ものづくり講座」を電気・電子・機械・京都ものづくりコースに設定、普通科と工業科の教員が大学の先生のご助言をいただきながらモノづくりを通した課題解決力やコミュニケーション力などの育成を行いました。また、「立志塾」は、この年度より難関大学への進学を目指すコースとして設置したハイパスステージにおいて設定し、日本経済新聞社編集委員を招聘、新聞等のメディアを活用した演習や経営者などの外部講師を招いてのワークショップを通して次世代リーダーの育成を目指しました。平成25年度からは、「立志塾」に加え、隔週土曜日に「洛陽マネジメントスクール」を開講し、ビジネスマネジメント力をもつ工業高校生づくりに取り組み学校改革を行いました。

校長就任の初年度である平成26年度は、学校改革のための様々な取組みを特別なものではなく、通常の教育活動に昇華させる年でした。次世代を担う若者への理数教育の充実に関する施策の一環として行われていた文部科学省のSPP（サイエンスパートナーシッププログラム）では、ハイパスステージを中心として龍谷大学と京都産業大学と高大連携を行っていました。

就任2年目は、洛陽工業高校創立130周年の記念すべき年でした。この年は、生徒諸君が様々な場面で活躍、とりわけ、剣道部と放送課が全国大会に出場するという快挙を成し遂げました。剣道部においては、京都府代表として団体戦のみならず個人戦でもインターハイ出場を果たしました。放送課においては、2部門でNHK杯全国高校放送コンテストに出場しました。在校生、教職員だけではなく多くの保護者、卒業生が歓喜しました。

そして、これまでの洛陽工業高校の校内外の環境推進活動などの取組みに対して数多くの表彰

をいただきました。京都市教育功労者表彰、京都市きょうと地域力アップ貢献事業者表彰、京都環境賞特別賞、ボランティア・スピリット賞等です。

また、12月には京都劇場において洛陽工業高校創立130周年記念式典を挙行了いたしました。式典後の記念講演では、洛陽京工会様のご支援により宇宙飛行士毛利衛氏にご講演いただきました。本校では、『宇宙に一番近い高校プロジェクト』としてハイブリッドロケットの製作と打ち上げなど宇宙に関する取り組みを継続して実施していました。

平成28年度は、唐橋校舎最後の年でした。第一工業学校の時代の昭和10年にこれまでの烏丸校舎から現在の唐橋の地に移転してから82年の年月が経っていました。そして、「唐橋校舎での最後の卒業生となる3年生」と「京都工学院高校との橋渡し役であり洛陽工業高校最後の卒業生となる2年生」の2学年だけの年で、新入生がいない少し寂しい年のスタートでしたが、2学年であるからこそできる取り組みを生徒、PTA、地域の皆様の知恵を結集して行うことができ、教育活動の中で寂しさを感じる時間はほとんどありませんでした。このころは、地元唐橋に生徒が入って様々な活動を行っていました。南区一斉清掃への参加、ものづくりを通した地域貢献や唐橋小学校でのイベントへの参加、児童を招いての見学会、地元各施設のイベントへの参加などです。いま、変化の激しい現代社会に生きるために必要な自分自身で「考え」「判断し」「行動できる」力をつけるためには、教職員だけではなく、外部の方々による教育の必要性も高まっています。新学習指導要領を先取りした取り組みであったと思います。

秋には、最後の「工展」と「学校開放見学会」を行い、多くの卒業生の皆様、地域の皆様に来校いただきました。生徒たちには、常々、オール洛陽の一員として誇りと責任感を持って振る舞うように伝えていましたが、この年には、卒業生、地域の方々と在校生が言葉を交わす機会が多くあり、生徒たちは改めて洛陽工業高校の良さを再認識したと思います。

教頭時代、校長時代を振り返り書かせていただきましたが、伝統ある日本で最も歴史ある洛陽工業高校で長年勤務をし、閉校舎までの3年間校長を務めたことは私の誇りであります。多くの人々により唐橋校舎で紡がれた「洛陽スピリット」が京都工学院高校に引き継がれていることを確信しつつ、一期一会の出会いに感謝いたします。

卒業生数

■ 全日制

下段（ ）内女子内数

学科名	学校名	染織学校	工業学校	第一工業学校	洛陽高等学校	洛陽工業高等学校	計
創造技術科						1,330 (77)	1,330 (77)
京都伝統産業科 (色染科・色染化学科・機織科・ 紡織科・繊維工学科・染織技術科)	373	181	1,048	888 (10)	2,687 (914)		5,177 (924)
環境科学科 (工業化学科・化学工学科・化学工業科)		25	427	561 (1)	2,196 (74)		3,209 (75)
電気科 (第二本科をふくむ)		36	845	1,045	2,661 (5)		4,587 (5)
電子通信科・電子情報科 (電気通信科・電子工業科・ 電子科・情報電子科)				108	3,177 (77)		3,285 (77)
生産技術科・電子機械科 (機械科)		34	841	1,262	3,258 (11)		5,395 (11)
建築科			650	24			674
普通科				3,418 (1,215)			3,418 (1,215)
商業科				525 (173)			525 (173)
計	373	276	3,811	7,831 (1,399)	15,318 (1,168)		27,600 (2,557)

■ 定時制

学科名	学校名	九条工業高校	洛陽高等学校	洛陽工業高等学校	計
電気科		145	775	1,473	2,393
機械科		122	724	1,556	2,402
工業化学科		41	277	340	658
コンピュータ科				225	225
計		308	1,776	3,594	5,678

沿革

■ 全日制

- 明治19年 9月 京都染工講習所を油小路下立売上る近衛町に創立
(1886年)
- 27年10月 染工講習所を基礎として京都市立染織学校(染物・織物の二部)を創立
- 28年 4月 平田専太郎 校長に就任、釜座通樺木町上る東裏辻町に新校舎竣工移転
- 30年 5月 織物実習室48坪、機関室31坪を改築、144坪の新築工場が竣工
- 31年 4月 平田校長 依願退職、山田三郎 校長代理に就任
- 32年 6月 山田三郎 校長代理任、鶴巻鶴一 校長に就任
- 33年 7月 鶴巻校長 ドイツに3年間留学を命ぜられ、山田三郎 校長代理に就任
- 34年 7月 山田三郎 校長代理任、金子篤寿 校長に就任
- 36年 4月 京都電燈株式会社より115ボルトの送電をうけ、動力織機の運転開始
- 36年12月 色染部製品：縮緬友禅、浴衣地ほか10数点、機織部製品：縹珍帯地、ネクタイ
ほか10数点を文部省に送付、全国染織学校を代表してセントルイスの万国博覧
会に出品(以後、国内・万国博等に出品すること多く、数多くの賞を受けている)
- 44年 3月 本校を上京区烏丸通上立売上る相国寺門前町に新築竣工移転
- 大正 6年 1月 金子校長 福島県立工業学校長に転任、正来遊方 校長事務代理に就任
(1917年)
- 5月 正来遊方 校長事務代理を解任、高力直寛 校長に就任
- 8年 4月 京都市立工業学校と改称
- 9年 4月 色染科・機織科のほか工業学校規程により工業化学・電気・機械の3科を設置、
従弟学校規程により第二商業学校跡を分教場として金工・木工・玩具の3科を設
置
- 12年12月 高力校長 退職、岩森弥助 校長に就任
- 13年 4月 建築科を新設
- 14年 4月 京都市立第一工業学校と改称、分教場を廃し、第二工業学校として独立
- 昭和10年 4月 下京区唐橋大宮尻町に校舎新築落成、移転
(1935年)
- 11月 新築落成式典・創立50周年式典を文部大臣代理・京大総長始め約600名の参列者
の中で盛大に挙行
- 13年 3月 新築移転・創立50周年記念として記念事業協賛会より工業普及館(木造平屋建93
坪)1棟を寄贈
- 9月 岩森校長 退職、第二工業学校長米沢美雄 本校校長に就任

- 14年10月 電気工事実習場木造2階建1棟竣工
- 16年6月 京一工父兄団よりうけたプール築造資金28,300円の寄付金によりプール竣工
- 19年5月 機織科を紡織科に変更
- 21年4月 米沢校長 依願退職、四条商業学校校長岩切直 本校校長に就任
 - 10月 創立60周年記念式典挙行
- 23年3月 岩切校長 解任、兵庫県立工業専門学校校長井口直次郎 本校校長に就任
 - 4月 学制改革により新制高等学校として京都市立洛陽工業高等学校と改称
 - 10月 総合制として再編成により普通・商業・工業の三課程を設置し、京都市立洛陽高等学校と改称
- 24年4月 建築科を伏見高等学校に移管し、伏見高校の機械科を本校に移管
- 29年10月 産業教育70周年記念、工業科施設・設備公開
- 31年9月 井口校長 退職、伏見高等学校校長奥谷久彦 本校校長に就任
 - 11月 工業科創設70周年記念式典挙行、3・4両日記念工展開催
- 33年4月 電気科通信実験室鉄筋1階建（34坪）を新設（以後逐次各科実習棟を新增築し昭和48年に鉄筋コンクリート建て各科実習棟の全建築を完了）
- 34年4月 電気通信科を新設
- 35年4月 電子工業科を新設
- 36年11月 創立75周年記念式典を洛陽京工会主催で、大谷ホールに於て挙行
- 37年4月 奥谷校長 退職に伴い、教育次長三木正雄 本校校長に就任。化学工学科を新設
- 38年4月 京都市立高等学校単独制実施により、京都市立洛陽工業高等学校と改称
- 40年4月 三木校長 堀川高校長に転任、京都市教育研究所長西村稔 本校校長に就任
 - 8月 体育館新築落成（1,157平方メートル）
- 41年10月 創立80周年記念式典挙行
- 43年4月 西村校長 退職、塔南高校長森藤吉 本校校長に就任
- 44年4月 電気通信・電子工業両科を統合して電子科を設置 森校長 退職、伏見工業高校
長 池田誠一郎本校校長に就任
- 46年6月 プール新設竣工
- 48年3月 電気科・工業化学科3階建実習棟改築、工業各科実験実習室改築
- 49年4月 池田校長 京都市教委指導部長に転任、本校副校長田華秀夫 校長に就任
- 50年4月 色染料は色染化学科、紡織科は繊維工学科と科名改称
- 52年4月 田華校長 退職、京都市教委学校指導課主幹伊吹信一 本校校長に就任
- 53年4月 工業化学・化学工学両学科を統合して化学工業科を設置
- 54年4月 伊吹校長 退職、本校定時制教頭 中川清校長に就任
 - 10月 図書館・コンピューター棟3階建新築竣工
- 55年4月 中川校長 退職、日吉ヶ丘高校教頭塩見徳男 本校校長に就任
- 58年4月 塩見校長 紫野高校長に転任、本校教頭高橋俊英 校長に就任

- 59年4月 高橋校長 塔南高校長に転任、本校教頭谷元保男 校長に就任
- 61年11月 創立100周年記念式典を京都会館第1ホールに於て挙行
- 62年3月 創立百周年記念館（1階は記念資料館、2階は職員室、3階は格技場）が竣工、開館式挙行
- 63年10月 全校生徒が京都国体秋季競技を見学
- 平成元年4月 谷元校長 退職、本校教頭安藤満洲穂 校長に就任
(1989年)
- 8月 本館屋上のサイレン撤去
- 2年4月 色染化学科・繊維工学科を統合して染織技術科を設置、電子科を改編して情報電子科を設置、機械科を改編して電子機械科を設置
- 2年10月 学科改編に伴い全学科共用のマイコン実習室・情報電子科プログラミング実習室・情報総合実習室・電子機械科FMS実習室の新設改修工事を着工
- 3年10月 学科改編に伴い全学科共用のCAD実習室・電子機械科電子工学実習室の新設改修工事を着工
- ソ連の宇宙開発事業団総裁セレプロフ氏来校、情報電子科2年生に講演
- 4年4月 安藤校長 退職、本校教頭大橋謙太郎 校長に就任
- 4年9月 学校週5日制に向けての第一段階として毎月第二土曜日休業日になる
- 5年4月 大橋校長 退職、京都市教委首席人事主事岡村和雄 本校校長に就任
- 6年1月 焼却炉をテニスコート北から中庭に移設
- 7年2月 トップインテリジェント講座開設。卒業生の岡本伊三美氏を招き「今 全力」と題し、講演会を実施
- 4月 岡村校長 退職、伏見工業高校長松井正夫 本校校長に就任
- 学校週5日制の取組第二段階として、毎月第四土曜日が休業日になる
- 7月 南実習棟2階に家庭科調理室を移設・改修
- 体育館の窓をアルミサッシに取替・改修
- 8年4月 松井校長 退職、伏見工業（定）教頭辻康文 本校校長に就任
- 7月 体育館の改修工事着工
- 10月 創立110周年記念式典をリーガロイヤルホテルに於て挙行
- 9年3月 北実習棟大規模改修
- 11年4月 染織技術科を京都伝統産業科、化学工業科を環境科学科、情報電子科2クラスを電子通信科・電子情報科、電子機械科2クラスの内1クラスを生産技術科に改編
- 13年12月 南実習棟大規模改修
- 14年4月 辻校長 退職、本校教頭奥村正文 校長に就任
- 完全週5日制の実施
- 15年5月 普通教室にエアコン設置
- 6月 プール改築

- 17年3月 職員室・ホームルーム教室・特別教室・実習室に校内LAN配線
4月 奥村校長 退職、塔南高校長 西村泰治 本校校長に就任
- 18年10月 創立120周年記念式典を全日空ホテルに於て举行
- 19年3月 ものづくり工房・学習サポート室・プレゼンテーションルーム完成
4月 創造技術科(1年)に改編
- 20年4月 創造技術科2年(電気コース、電子コース、機械コース、京都ものづくりコース)
4コース設置
- 21年4月 西村校長 紫野高校長に転任、京都市教委首席指導主事恩田徹 本校校長に就任
- 23年4月 平成23年度入学生 2年よりハイパスステージを電気コースに設置
- 25年3月 さくら咲かそうプロジェクト(岩手県陸前高田市訪問)桜植樹活動始まる
- 26年4月 恩田校長 堀川高校長に転任 本校副校長牛田豊嗣 本校校長に就任
ハイパスステージをコースとして独立
- 27年12月 創立130周年記念式典を京都劇場に於て举行
- 28年11月 学校開放見学会を実施
- 29年3月 唐橋校舎閉校舎式典を举行
4月 牛田校長 京都市教委首席指導主事に転任
京都工学院高校長砂田浩彰 本校校長兼任
伏見区深草西出山町へ移転

平成30年3月3日 京都市立洛陽工業高等学校卒業式・閉校式を举行、創立132年の幕を閉じる

■ 定時制

- 昭和12年4月 京都市立第一工業学校第二本科(夜間授業・4年制、入学資格は高等小学校卒)
(1937年) として創設
- 19年4月 京都市立九条工業学校として、京都市立第一工業学校に併設し、独立した4年制
夜間甲種工業学校として発足
- 23年4月 学制改革により京都市立九条工業高等学校と改称
- 23年10月 総合制高等学校として発足に従い、京都市立洛陽高等学校定時制と改称
- 38年4月 京都市立高等学校単独制実施により、京都市立洛陽工業高等学校定時制と改称
- 平成10年4月 工業化学科募集停止、新たにコンピュータ科(定員40名)設置。電気科募集定員
(1998年) 1クラス減
- 15年4月 機械科募集定員1クラス減
- 17年4月 募集定員変更(電気科25名、機械科30名、コンピュータ科30名)
- 18年4月 募集定員変更(電気科20名、機械科20名、コンピュータ科20名)
- 19年4月 募集停止
- 23年3月 定時制課程 閉制

学科の変遷

			全日制					定時制
京都 染工講習所	明治19年	1886	油小路近衛町	色染応用化学・ 染色原理・ 染色原料の教授				
市立染織学校	明治27年 10月	1894		色染部	機織部			
	明治28年	1895	釜座根木町					
京都市立 工業学校	大正 8年	1919		色染科	機織科			
	大正 9年	1920			工業化学科	電気科	機械科	
	大正13年	1924					建築科	
京都市立 第一工業学校	大正14年	1925					電気科	
	昭和10年	1935	唐橋大宮尻町					
	昭和16年	1941					機械科	
	昭和18年	1943						
	昭和19年	1944			紡織科			工業化学科
京都市立 洛陽工業高校	昭和23年 4月	1948		色染科				
京都市立 洛陽高校	昭和23年 10月	1948						
	昭和34年	1959				電気通信科		
	昭和35年	1960				電子工業科		
京都市立 洛陽工業高校	昭和38年	1963			化学工業科			
	昭和44年	1969				電子科		
	昭和50年	1975		色染化学科 (1)	繊維 工学科 (1)			
	平成 2年	1990		染織技術科 (1)	化学工業科 (1)	電気科 (1)	情報電子科 (2)	電子機械科 (2)
	平成11年	1999		〈産業技術系学科群〉 京都伝統産業科・環境科学科		〈電気電子系学科群〉 電気科・電子通信科 電子情報科		〈機械系学科群〉 電子機械科・ 生産技術科
	平成19年	2005		創造技術科 (2年生から電気コース・電子コース・機械コース・京都ものづくりコースを選択)			平成 22年 3月	コンピュータ科
	平成23年	2011		電気コースにハイパスステージを設置				平成 23年 3月
	平成26年	2014		創造技術科 (2年生から電気コース・電子コース・機械コース・京都ものづくりコース・ ハイパスステージを選択)				